

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小林ゼミⅡ	チーム名	こばきんⅡ
タイトル	公的年金制度の維持を目指して		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	荒木大輔、石坪佑規、市橋直之、大久保宏治、片山拓人、柴田将、篠塚祐太、杉尾信人、谷口友里恵、風呂田勝之、横畝敬、南昂、野中俊吾、山田雄亮、山根有裕、和田拓也、枝松健太、菅田皆人、吉岡達浩、山本寛生		
研究計画内容	<p>今、日本では年金受給開始年齢を 65 歳まで段階的に引き上げられている途中です。昨年フランスでは受給開始年齢を 65 歳から 68 歳に引き上げました。財政危機に陥っているギリシャ、アイルランド、スペインでも年金受給開始年齢引き上げが大問題となっています。最長寿国日本がこのまま財政運営を行うことは困難です。日本もさらなる引き上げが求められます。しかし、老後に向けた計画はすぐには変えられません。再雇用制度を充実させるなどの必要があります。</p> <p>また日本では週 30 時間以上勤務すると厚生年金や健康保険組合、協会けんぽに加入することが義務付けられています。これを週 20 時間以上に変更することが検討されています。しかし、それに伴って出てくる問題点もあります。スーパーなどは、パートやアルバイトなどの短時間勤務の非正規雇用者をたくさん雇っています。もし厚生年金適用の拡大が行われると社会保険料負担が増えてしまいます。</p> <p>2010 年で若年層の非正規は 25 歳未満では 45%強です。これは年金を支える若者がとても少ないことを意味します。また、日本の将来を安心して住める社会にすることができるのは私たちの手にかかっていることも意味します。結婚や子育てのために退職せざるを得ない若者も非正規社員が増加している原因だと言われています。正社員を増やすための対策を、他国とも比較しながら研究していきます。</p> <p>受給開始年齢、短時間労働者、若年層の雇用。この 3 つの視点から年金問題について研究し、日本は今どう動くべきなのかを考えます。</p>		